

## アーカイブズ学とは何か

岡崎, 敦  
統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻 : 教授 : 西洋史

<https://hdl.handle.net/2324/19869>

---

出版情報 : イベント等資料, 2011-07-20  
バージョン :  
権利関係 :

連続講演会「ライブラリーサイエンスの現在」

2011年7月20日 九州大学中央図書館

ライブラリーサイエンス専攻 岡崎 敦

アーカイブズ学とは何か

# 0 : 「アーカイブズ」についての誤解

## 1) 世間の誤解

—日本アーカイブズ学会シンポジウム「デジタルアーカイブ」での誤解

—九州大学での誤解

—アーカイブ？ アーカイブス？

# 0 : 「アーカイブズ」についての誤解

## 2) 誤解の中味

—アーカイブズは「古い」資料か？

時間には無関係。古い資料は排除すべきとの意見も

—アーカイブズは「文字」資料か？

文字以外の資料も。地図、図表、数字。「支持体」  
の如何を問わず

—アーカイブズは「コンテンツ」重視か？

個々の資料のコンテンツ、中味ではなく、資料の  
「塊＝群」の構造と機能への関心

# 0 : 「アーカイブズ」についての誤解

## 3) この講演の趣旨

—資料管理の学問としての「アーカイブズ学」、  
そこでの「アーカイブズ」についての基礎と現状を  
紹介

—アーカイブズの多様性と資料管理の統一性の欠  
如

—資料、情報の体系的整理ではなく、その前  
提となる組織、機能のあり方の保存が目的

—西欧、アメリカ、カナダ、オーストラリア  
と発展と、日本の特殊性

—公文書管理法施行（2011年4月）

# 1 : アーカイブズとはなにか

## 1) 定義 (International Council on Archives)

—(1)ある法人あるいは個人が、**その活動の過程**で作成、受領し、さらにその**組織固有の必要のために**自身、あるいは後継者によって保管されるか、あるいは資料保管組織に移送される**資料の総体**で、日付、形態、物的支持体の如何を問わない

—(2)アーカイブズ資料の処理、目録化、保存、公開のための専門機関

—(3)アーカイブズを保存、公開するための建物

英語では、アーカイブズをnon current recordとよび、RecordとArchivesを区別

# 1 : アーカイブズとはなにか

## 2) アーカイブズの性格

—組織の活動、業務に関連して「自然と」生成、蓄積される資料

—拘束力、挙証能力；法的性格、証拠としての価値

—権利証書、会計簿、議事録、人事記録；学籍原簿、入試関係資料

—組織が「作成」するものだけでなく、組織が「受領」、利用した資料も

—業務のチェックのための資料管理。組織の必要のため

# 1 : アーカイブズとはなにか

## 2) アーカイブズの性格

—フランス革命のさなかに誕生した近代的文書館

—市民への情報提供サービスとしての役割（議会アーカイブズから出発した市民への情報公開機関）

—国家が管理する基礎資料の保管（度量衡原基、土地台帳原本、法律原本など）

—「国民国家」形成期の歴史時代（19世紀）にあって、歴史家が学問研究の基礎データを探索





# 1 : アーカイブズとはなにか

## 3) ライフサイクル : 業務の現場から保存庫まで

—20世紀後半の新しい問題関心

—評価、選別の重要性の高まり : 責任と基準  
(Schellenberg, *Modern Archives*, 1956)

—業務の現場での資料管理の自律 (レコードマネジメント) ISO 15489 (2001) = JIS S0902-1

# 1 : アーカイブズとはなにか

3) ライフサイクル：業務の現場から保存庫まで

—20世紀末からの新しいアーカイブズ学

—すべての段階を統一的に把握

～ボーンデジタル資料と選別評価の無意味

化

—資料の管理から、業務コンテキストとプロセスの管理へ

～資料管理の二義的位置づけへ

## 2 : アーカイブズとアーカイブズ学

### 1) アーカイブズ資料と組織

#### —資料の性格

—組織に関係する資料「だけ」が、自動的に移送  
⇔**収集物 collection と対立** (図書館、博物館は、基本的に他者の作品の能動的収集場所)

—「古文書」の取り扱い：原則は、無関係

世界初のアーカイブズ立法 (1794年法) は、旧証書 anciens titresは図書館、博物館へ。文化財は、図書館、博物館のコレクションという理解が一般的

## 2 : アーカイブズとアーカイブズ学

### 1) アーカイブズ資料と組織

—組織との関係：

—アーカイブズは、当該組織のなかに、あるいは強い関係のもとに存在（組織の存在と密接不可分=>出所原則）

—独立した資料管理部署、機関は不可欠ではない：  
業務部署内、専門部署、専門機関

—独立した資料管理組織としての近代的文書館制度、  
およびアーカイブズ学の形成（19世紀末から20世紀）

## 2 : アーカイブズとアーカイブズ学

### 2) 資料管理の具体相

—ICA, ISAD(G): General International Standard for Archival Description, Second Edition (2000); 1<sup>st</sup> ed. (1994)

『記録史料記述の国際標準』（北海道大学図書刊行会、2001）

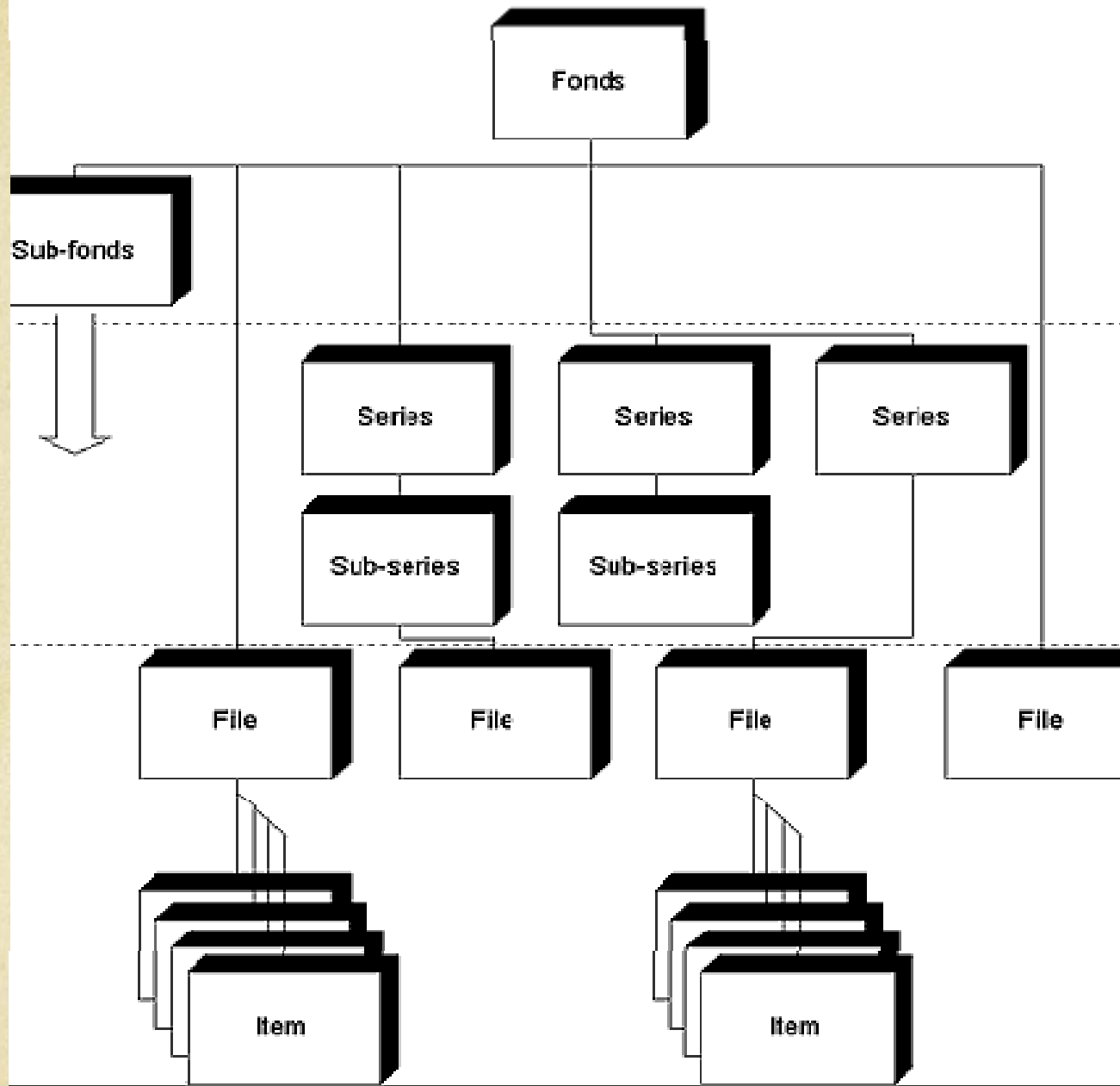
—フォンド、シリーズ、ファイル、アイテムという階層構造のなかでの位置づけ（メタ情報）を記述

—出所、現秩序維持原則：資料群の塊としての秩序保存

—組織構造、編成と対になった資料の存在と機能のあり方自体を管理

—目録＝資料管理は、しばしばアイテムには及ばない（関心がない）。アーカイブズにおける資料「量」の数え方（棚の長さ）

# MODEL OF THE LEVELS OF ARRANGEMENT OF A FONDS



フォンド (組織)

シリーズ (業務)

ファイル (仕事)

アイテム (資料の一点一点)

# ISAD(G)2

## 序論

### 0. 用語集

### 1. マルチレベル記述

#### 1.1 序論

### 2. マルチレベル記述規則

#### 2.1 全体から個別への記述

#### 2.2 記述レベルに適した情報

#### 2.3 記述のリンク

#### 2.4 情報の非重複

## 3. 記述要素

### 3.1 個別情報のエリア

#### 3.1.1 レフェランス・コード

#### 3.1.2 タイトル

#### 3.1.3 年月日

#### 3.1.4 記述レベル

#### 3.1.5 数量と媒体

### 3.2 コンテキストのエリア

#### 3.2.1 作成者名称

#### 3.2.2 組織歴または履歴

#### 3.2.3 伝来

#### 3.2.4 入手先



# ISAD(G)2

## 3.3 内容および構造のエリア

3.3.1 資料内容

限 3.3.2 評価、廃棄処分、保存年

3.3.3 追加受入

3.3.4 編成

## 3.4 公開および利用条件のエリア

3.4.1 公開条件

3.4.2 複写条件

3.4.3 使用言語および文字体系

要件 3.4.4 物的特徴および技術必要

3.4.5 検索手段

## 3.5 関連する資料のエリア

3.5.1 オリジナル資料

3.5.2 複製

3.5.3 関連資料

3.5.4 出版書誌情報

## 3.6 ノートのエリア

3.6.1 ノート

## 3.7 記述コントロールのエリア

3.7.1 アーキビスト・ノート

3.7.2 規則または取り決め

3.7.3 記述年月日

## 2：アーカイブズとアーカイブズ学

### 3) アーカイブズ資料の性格

—アイテム単位の資料は、非常にしばしば**定型化された文言、数字、情報の羅列**。関係者以外には正確な意味が理解できない ⇔ 図書館、博物館は、素人のための啓蒙機関

—個々の資料の内容よりも、それらが「**どのような資料**」か（どのような法的効力を与えられたものか）、どの会議で提示、決定されたか、などのチェックが重要

—同一の資料が、複数の業務の場で利用。**同一内容の資料が組織の各所に散在**

～20世紀にますます問題化する資料と組織、業務の複雑化

### 3 : アーカイブズ学の変容

#### 1) コンテキストとプロセスの管理

—資料は、**組織編成と業務の具体相を反映**。資料を  
チェックすることで、**組織運営**をチェック

—個々の資料の内容ではなく、**資料群の構造の記述**が  
重要

特定の決定がどのような資料にもとづき、いつど  
の段階で会議で決定されたのか

—EAD: Encoded Archival Description (1993-; 1998; 2002) :

資料情報電子化のための規格。**個々の資料文言で  
はなく、メタ情報の管理**

### 3 : アーカイブズ学の変容

#### 2) 情報化の進展とアーカイブズ学の変容

—レコード・コンティニウム理論：

—アーカイブズ資料の全体管理：

生成から廃棄後の記憶までを一つの過程として統合的に管理

—ボーンデジタル資料への対処

レコード／アーカイブズ区分論の無意味化、  
事実上無限大の記憶容量（捨てる必要すらない）

# 3 : アーカイブズ学の変容

## 2) 情報化の進展とアーカイブズ学の変容

### —物理的管理の制約からの解放

—資料の塊を、モノとして体系的に保存する必要からの解放。機械的な時系列での収納

### —資料整理の意味の変容

物的に意味ある塊をなす（秩序保存された）資料群の内部構造の解析とその目録化から、

コンテクストとプロセス情報それ自体の管理へ

# 3 : アーカイブズ学の変容

## 2) 情報化の進展とアーカイブズ学の変容

—資料から「仕事と業務」の情報へ

—業務は、組織を越える（組織自体が不断に変容）。特定の「しごと」と関係資料群の関係を管理（流動化するコンテキストの把握）⇔出所原則は「資料＝組織」を前提

—業務の現場における「しごと」プロセス自体のチェック。ヴァーチャルな「しごと」プロセスの再現

—あるべき情報の存在、非存在、廃棄等の把握の重要性

～資料自体を保存する意味の低下、不必要？

## 3 : アーカイブズ学の変容

3) 何のためのアーカイブズ管理か : 21世紀の変容 ?

—組織の**内部統制**

—戦略的組織運営

—コンプライアンス、情報公開、個人情報保護

—公文書管理法と情報公開法、個人情報保護法

# 3 : アーカイブズ学の変容

3) 何のためのアーカイブズ管理か : 21世紀の変容 ?

—公共性問題 : 「公的」アーカイブズの意味

—国家アーカイブズの整備と国民統制 :

すべての情報を収集し、管理し、徴募し、命令し、「幸福」を保証する**全体主義的国家**

—公共性の再定義 :

国・公共団体の意義の変容 (**国民統制から公共的役割の担い手に**)。民間セクターの公共的役割の増加。個人の自己責任 ~ 私文書の統合、民間文書の「収集」

—財政問題と効率的な運営 (公的セクターの縮小と民営化、MLAK連携) => 地域の情報センターという統一的視座。情報の管理から、提供サービスへ



## 3 : アーカイブズ学の変容

### 3) 何のためのアーカイブズ管理か : 21世紀の変容 ?

—情報アクセスの意義 : 本来的に関係者以外には意味不明の情報  
~役人か研究者しかいないというかつての状況

=> 資料管理機関の様々な啓蒙活動の広がり

—フランス「歴史の家」をめぐる論争

—大統領命令による「フランス歴史博物館」建設構想と文  
書館との合併提案

—歴史家、文書管理専門家の強い反対

—歴史=プロパガンダ、価値の表明 ⇔ アーカイブズ=歴史  
を含む過去の「客観的な」検証のためのインフラ

## まとめ：図書館、博物館との相違と今後の問題

### 1) 相違点

—資料の性格：関係者向けの業務資料

⇔図書館、博物館では、人類の貴重な知識やその成果

—管理の視座：コンテクストとプロセスへの関心。個々のコンテンツ、文字列は二次的

⇔図書館情報学では、全文検索に代表されるコンテンツに対する関心が優位？

—取り扱い：組織の業務情報の検証。管理の強化こそが課題

⇔図書館情報学では、法的規制の緩和、回避に関心？  
クリエイティブ・コモンズとの関連

# まとめ：図書館、博物館との相違と今後の問題

## 2) 共通点

— **メタ情報管理の優位**：ダブリン・コア（1995年—；2003年、ISO 15836）

— 「情報」そのものへの関心：cf. 長尾国立国会図書館長講演

— **コンテキストとプロセスを含み込んだ「情報」そのものの管理**。ホームページ、「現象」の管理 ⇔ 近代的な作品管理（固定化された著者、作品名、コンテンツ＝文字列、出版社統制）

— 情報の固定化された内容ではなく、その**変容過程への関心**：書誌学をはじめとする学問ではすでに数十年前から進行。記憶の管理という問題系（80年代から流行）。ポスト・モダン

— **評価、選別からの離脱**：保存すべき「よい」資料や廃棄すべき「悪い」情報などない。情報の価値を資料管理機関が判断しない

# まとめ：図書館、博物館との相違と今後の問題

## 2) 共通点

—現代社会の変容と情報の性格の変容：

—公私の区別（公共団体、民間など）、自他の区別（誰のテキストか）、国家の退場（公共性の開放）

—業務には、狭義のアーカイブズ資料だけではなく、多様な資料が介在 ～アーカイブズと他の文献資料を分ける意味がない（しごと＝業務のコンテキストとプロセスとしては一体化）

～アーカイブズ資料と図書文献との性格の違いの相対化

# まとめ：図書館、博物館との相違と今後の問題

## 3) 今後の問題

—アーカイブズ管理における統一性と区別

—レコードマネジメントと現代アーカイブズ部門との統合

～組織運営の中核との関係深化（情報公開、運営戦略・評価、知的財産保護）。ISAD(G)とISO15489との接合の試み。ただし、「必要のなくなった」情報（アーカイブズ）への無関心

—古文書、古記録部門と図書館、博物館との統合

～アーカイブズの社会的啓蒙の役割への期待。国民、市民、地域の「記憶」の総合的管理、啓蒙機関へ

～組織の歴史編纂部門はむしろ組織の広報部門で、「客観的」アーカイブズ管理組織とは無関係

—フランス国立古文書学校（90年代初めから）での入試、カリキュラム改革；フランスアーカイブズ総局総監人事；新中央文書館分館建設と前近代部門との物理的分離

## まとめ：図書館、博物館との相違と今後の問題

### 3) 今後の問題

—アーキビスト、情報管理専門家の役割は？

—情報管理者は情報技術者か（70年代頃の予言）？

—民主主義社会のインフラの担い手として、情報社会の仕組みと政治権力構造への理解が不可欠：広義のマネジメント能力

—「公共部門」として、資料＝情報管理専門機関は生き残れるのか？

民間活動とは区別される活動とは？（業務委託で外部化されない仕事とは？）

ご静聴、ありがとうございました。